



富士通テングループの 「社会・環境報告書(Sustainability Report 2012)」を 読んで

広島経済大学 経済学部経営学科 教授 岡田 齋 氏

【略歴】

大阪大学工学研究科および神戸大学経営学研究科修了。博士(工学、経営学)。2012年4月より現職。CSR・環境経営、企業不祥事、MFCA(マテリアルフローコスト会計)などを研究。平成21及び22年度経済産業省委託「サプライチェーン省資源化連携促進事業」診断事業評価委員会委員。

富士通テンの長期ビジョン

「私たちは、『誠』を大切に働き、お客様・社会に貢献します。」という企業理念を掲げる富士通テンは、お客様の期待によりスピーディに対応し、「人とクルマのより良い関係づくり」に貢献することを実践されてきました。これは、富士通テンの社会的な使命であり、事業を通じた社会への貢献です。

富士通テングループの10年ビジョン「VISION2012」は今年度で終了し、新たな長期ビジョンが策定されるとお聞きしました。今後策定される富士通テンの企業活動の指針となる新長期ビジョンには、社会との関わりを経営に落とし込む仕組みと、KPI(重要業績評価指標)をもとにしたCSRマネジメントを盛り込まれることを期待します。

グローバル化への対応

富士通テンは、新興国でのビジネスの拡大を目指すとともに、海外生産拠点も含めたグループ全体でCSR活動を推進しています。2010年度に実施されたISO14001のグローバル統合認証のグループ全拠点への拡張に続き、2011年度は労働安全衛生の国際規格である「OHSAS18001」のグループ複合認証を取得され、グループ全生産拠点を対象としたグローバル統合認証取得を目指されています。このような環境経営の展開や活力あふれる職場づくりの推進に向けたグローバルな取り組みは高く評価されます。

継続的なグリーンプロダクツへの取り組み

富士通テンのグリーンプロダクツへの取り組みは、「スーパーグリーン製品」の市場投入と、環境効率ファクターの改善を目標に掲げ、着実に成果を上げています。「LCA算出」「環境効率ファクター算出」「グリーン度評価」の3つのシステムにより設計者の負担が軽減され、さらに「タスク管理システム」の運用も始まりました。このようなさまざまな取り組みにより、今後一層のグリーンプロダクツの創出が期待されます。

BCPへの取り組み

東日本大震災では、自動車部品のサプライチェーンが分断され、世界中の自動車製造に大きな影響が及び社会的に大きな問題になりました。これを受けて富士通テンの事業継続への取り組みの重要性を再認識され、対策を推進されています。富士通テンは、阪神淡路大震災も被災し、大きな被害が発生しました。近年の2つの大震災の被災経験をBCP(事業継続計画)に活かすとともに、効果的な運用ができる体制を構築されることを期待します。